

令和6年度（2か年計画2年次）  
帯広市立豊成小学校  
研究概要

# 研究主題

「教わる」から「学ぶ」  
授業への転換


# 教師としての意識改革

子どもの学びを  
待つ、見守る




(子どもの前ではなく)  
横・後ろに立つ





昨年、手探りながらも“**子どもに委ねた**”ことから  
子どもの“**やってみる**”力が芽生えてきました。

今年度は、**子どもが主体的に学ぶ**ことに加え、  
子どもにとっての**生きる力を育む**ことを目指して、  
研究を進めています。



# 目指す子ども像

① 「やってみたい」と、（1年次）

→ 学ぶことの楽しさを実感し、（2年次）

自ら進んで学ぶ子ども

② 社会性や自主性を身に付け、

生きる力を育む子ども

# 研究仮説 | 年次

① 「やってみたい」と思える課題設定の工夫をすることで、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

② 学びの場の保障をすることで、安心して挑戦し、思いを実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

# 研究仮説 2年次

①課題に対して一人一人が目標をもち、ゴールまでの道筋をつくることで、見通しをもって学ぶ子どもを育てることができるだろう。

②できた！わかった！成長した！を実感する手立てを講じることで、学ぶ楽しさや喜びを実感し、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

# 今年度の研究



# 研究主題

「教わる」から「学ぶ」

授業への転換

～“できた!わかった!成長した!”

を実感させる学びのデザイン～

# 研究計画

## 1年次 研究の導入期

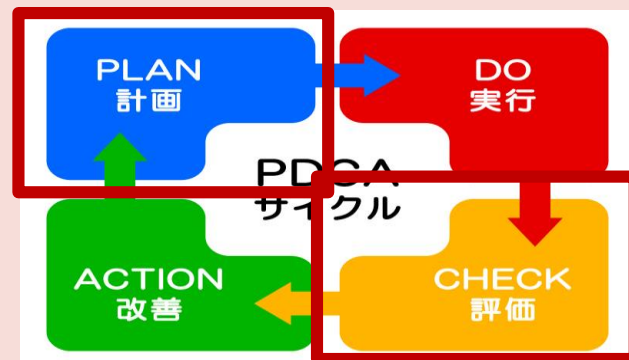
重点 ・ Plan (計画) ・ Do (実行)



子ども自身が計画を立てたり見通しをもったりする手立てのうち、自ら進んで実行する主体性を育む。

## 2年次 研究の充実期

重点 ・ Plan (計画) ・ Check (評価)



子ども自身が計画を立て、見通しをもって学ぶ力を育む。

子ども自身が自己評価をし、ふり返りの視点をもって自分の考えを広げ深める力を養う。

# サブテーマについて

学ぶことの楽しさ



～“できた!わかった!成長した!”を実感させる**学びのデザイン**～



- ①個別目標
  - ②ゴールまでの道筋
  - ③ふりかえり
- など

今年度、研究で深めていく。

# 研究仮説①

課題に対して一人一人が目標をもち、ゴールまでの道筋をつくることで、見通しをもって学ぶ子どもを育てることができるだろう。

## ①個別目標を立てる

- ・ 課題は教師が提示 (指導事項があるため)  
*なんでも取り組みばよいわけではない！基礎が大事！  
おさえるべきことはおさえる！*
- ・ 課題に対して  
自分のゴールイメージをもつ
- ・ 単元で身に付けさせたい力を確認

自分に合った目標が  
やりがいや喜びに

目標設定する力が身に付く

学び方、生き方につながる

# 研究仮説①

課題に対して一人一人が目標をもち、**ゴールまでの道筋をつくる**ことで、**見通しをもって学ぶ子どもを育てることが**できるだろう。

## ②ゴールまでの道筋をつくる

- ・目標達成までの手順、方法などをつくる（高学年）  
えらぶ・きめる  
（中学年、低学年、特別支援）

試行錯誤や失敗も経験に

最適な方法を見つける力

学び方、生き方につながる

## 研究仮説②

できた！わかった！成長した！を実感する手立てを講じることで、学ぶ楽しさや喜びを実感し、自ら進んで学ぶ子どもを育てることができるだろう。

### ③ふりかえり

- ・ 個別目標の到達度を確認  
(ときには、できるまでチャンスを)  
やりっぱなし× やらせっぱなし×
- ・ 実感できる問題づくりや、  
序盤の作品と見比べる等の手立て



成長を目に見える形に示す

喜びや達成感が楽しさに

自分で学びをデザインする  
力を身に付けて欲しい

## 1 昨年度の研究仮説に関わる教師のマネジメント

仮説	<低学年>	<中学年>	<高学年>	
仮説① 課題設定の工夫	①ゴールの見える課題設定（本時のゴール、単元全体のゴール） 段階的な単元計画、適切な条件の設定（自力解決、交流、発表の仕方など）、			①ゴール
	②「やってみよう」と思える課題設定の工夫 低学年～日常生活と関わらせ、意欲をもてる課題	②「やってみよう」と思える課題設定の工夫 中・高学年～児童の疑問から問いを生み課題につなげる、振り返りを生かして次の問いにつなげる		②課題設定の工夫
仮説② 学びの場の保障	③児童が主体となって活動する時間の保障 低学年20～30分	③児童が主体となって活動する時間の保障 中・高学年～30～40分		③時間の保障
	④自己決定、自己選択の場の保障 低学年～取り組む題材 など	④自己決定、自己選択の場の保障 中・高学年～取り組みたいテーマ、課題解決のための手立て（表現方法、調査方法、個人 or 集団）		④自己決定
	⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる 低学年～効果的なワークシート など	⑤主体的に学ぶための「アイテム」を持たせる 中・高学年～話し方や読み方・書き方など「学び方」の指導、段階的な単元計画		⑤アイテム
	⑥子どもたちが安心して学習に取り組める手立て 学習の見通しが明確に持てる、個々の学習状況の把握、児童主体の活動中の教師からの関わり（ヒントカードなど）、再チャレンジの機会の保障			⑥安心できる手立て
	⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て 低学年～挙手での発表、交流の経験を積む	⑦意見の共有、個→全体へ収束させる手立て 中・高学年～全体交流の進行（指名計画）、小集団交流の目的の明確化		⑦共有

## 2 今年度の研究仮説に関わる教師のマネジメント

	<低学年>	<中学年>	<高学年>	
仮説① 一人一人の目標、ゴールまでの道筋	①個別目標を立てる 例示や選択肢から「えらぶ、決める」	①個別目標を立てる 自分に合った目標を「作る」		★ ①個別目標
	①ゴールまでの道筋を作る 目標達成までの手順、方法などを「えらぶ、決める」	①ゴールまでの道筋を作る 目標達成までの手順、方法などを「作る」		★ ①ゴールまでの道筋
仮説② できた！分かった！成長した！を実感する手立て	②成長を目に見える形に示す 個別目標の到達度を確認、到達度を確認する問題設定、序盤の自分と見比べる			★ ②成果の実感

※特別支援ブロックは、各児童や学級の実態に応じて取組の段階を適宜選択する。

# 指導案の見方



# 授業づくり（1年次のまとめ）

## ①単元の例

### 4. 単元計画と学習評価（全8時間）

二等辺三角形・正三角形の性質をまとめ、作図する。

時	学習内容	学習評価（知・思・主）〈方法〉
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の課題を知る。</li> <li>二等辺三角形や正三角形の性質を調べ、まとめる。</li> <li>二等辺三角形や正三角形の作図をする。</li> <li>二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の構成要素に着目し、二等辺三角形や正三角形の性質を理解すること</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形や正三角形の性質を調べ、まとめる。</li> <li>二等辺三角形や正三角形の作図をする。</li> <li>二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の円の性質や、二等辺三角形や正三角形の意味や性質に着目して、作図の仕方や作図できた理由を考え、説明している。（思）</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を、円の性質を用いて考え、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円の性質を振り返り、円</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>角の意味や角の大きさの相等や大小について調べ、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きさは辺の長さに依存</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形や正三角形の角の特徴を調べ、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>の大きさを比較した結果</li> <li>を考え、説明している。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形や正三角形を重ねることで模様を作る。</li> <li>円を使って三角形をかいて、模様を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形では、2つの角、正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。（知）&lt;観察・ノート&gt;</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の定着を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な問題を解決することができる。（知）&lt;観察・ノート&gt;</li> </ul>

「学び」が主

「習得」が主

「学び」が主

単元の中に「学び」が主の時間と「習得」が主の時間を設定する

## ②1時間の例

### 7. 本時の学習展開（1/8）

	児童の学習活動	評価口・留意点※
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形</li> <li>○単元</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価口・留意点※</li> <li>児童が自分</li> <li>取りまわることが</li> </ul>
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性質を調べたり、作図の仕方を考えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の見通しをたてる。</li> <li>※取りまわりの順序を考慮させる。</li> <li>※ノートには、①取りまわりの順序②図形の性質の予想</li> </ul>
終末 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○できたこと・わかったこと・できなかったこと・わからなかったことを発表し合い、取組の確認をする。</li> <li>○本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の振り返りを促す。</li> <li>※単元のゴールを再度確認し、次時に取り組むことを確認する。</li> </ul>

子どもが「学び」だせる導入

えらぶ・きめる

20~40分

短時間で導入を行い、学ぶために十分な時間を保障する

# 授業づくり（2年次の取組）

## ①単元の例

時	学習内容	学習目標(知・思・主) (方法)
1	・学習の見通しをもち、学習目標を立てる。 ・身の回りの関心事から題材を選び合う。 ★1ゴール★1個別目標	・目標に向かって、学習計画(ノート・発言)
2	・題材と主張を整理する。	(知)〈ノート・発言〉 ・「書くこと」において、 して書く。
3 (本時)	・自分の主張に対する根拠を整理し、 自分の主張に対する根拠として説得力があるか かを考える。★1個別目標 ★2成果の実感	・積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって 文を書くとしている。(主)〈タブレット・発言〉
4	・自分の主張と根拠について友達と話し合い、 自分の主張に対する反論やそれに対する考え をまとめる。	
5	・説得力を増やすために効果的な文章の構成を考 える。	
6	・構成を基に意見文を書く。 ・書いた文章を読み返し、推敲する。 ★1個別目標	・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使ってい (主)〈タブレット〉
7	・意見文を読んで感想を伝え合い、文章の良 さを見つける。 ・学習を振り返る。 ★2成果の実感	・これに応じて、事実と感想、意見とを るように書き表し方を工夫してい

個別目標の  
設定

学習の見通し

個別目標の  
ふりかえり

「できた!わかった!成長した!」  
を実感する場

## ②1時間の例

7. 本時の学習展開 (3/6)

	児童の学習活動	評価口 留意点※
導入 7分	○学習の流れを確認し、自分の主張と根拠、個別目標を確認する。 ★1個別目標 ○自分の考えた根拠が主張を裏付けるものとして十分に説得力をもっているか振り返る。 ◎説得力のある文章にするためにはどうしたらよ いだろうか。	※自分の目標を達成するために、十分な根拠になっているかを考えさせ、友達から意見をもらう必要性を感じさせる。
展開 33分	○グループで、前時までに友達で作ったものを基に説得力を増すためにどのような工夫が必要か考える。 ・主張は自分の意見、根拠は事実をもとにする。 ・出典や数値をあげる。 ・反論を想定し、それに対する考えをあげる。 ○全体で、説得力を増すためにどのような工夫が必要か整理し、見るポイントを確認する。 ○全体で確認したことを基に自分で直す。 ○直した児童から友達と交流し、お互いの根拠が説得力のあるものになっているかを考える。 ・根拠として説得力があるか。 ・どのようなデータがあるかよいかな ◎共有	※反論の想定は次時とし、根拠が主張に対して妥当であるか、出典や数値を活用できているかを児童同士の交流の中で考えていく。 ※活動形態(どのようなグループにするか、使用するアイテム(ワークシート、タブレット)などを自分で選択・決定する。 □目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ※友達からのアドバイスはメモ欄にメモしておく。
終末 5分	○学習をまとめる。 ◎説得力のある根拠とするためには、出典や数値を明らかにして書くことが大切である。 ○学習の振り返りをする。	※まとめは児童の言葉でつくることによって、達成感をもたせる。 ※◎、○、△などの記号で振り返る。

③時間の保障

④共有  
⑤アイテム  
⑥ゴール  
⑦成果の実感

単元の前半に個別目標やゴールへの道筋を示し、後半に「できた!わかった!成長した!」などの成果を実感できる単元構成

昨年度のマネジメントを基盤とし、今年度の仮説の中から重点をおく

# 授業のみどころ

# 低学年ブロック

## 算数科『ひき算』



①個別目標



①ゴールまでの道筋



②成果の実感

自分でやり方を考えて、相手に伝える  
ことで、できた！わかった！成長し  
た！を実感できる授業を目指します。

1年1組 授業者 平岡あゆみ

中学年ブロック  
社会科『火事からくらしを守る』



①ゴールまでの道筋

資料から、単元で学習する  
「ゴールまでの道筋」がみえる授業を  
目指します。

3年1組 授業者 常陸健太

# 高学年ブロック

## 国語科『あなたは、どう考える』



①個別目標



②成果の実感

個別目標に向かって友だちと協働しながらよりよい文章を作り、自分の成長を実感できる授業を目指します。

5年2組 授業者 林直樹

# 特別支援ブロック

## 自立活動『ボッチャを楽しもう』

★ ①個別目標

★ ①ゴールまでの道筋

★ ②成果の実感

個別のめあてをもって話し合いにのぞみ、活動を通して互いの成長を実感できる授業を目指します。

カモカモ学級1・2年（情緒） 授業者 関谷智子 増田美香

今年度の研修については、  
ホームページの「研修だより」を  
ご覧ください。

また、「研究概要（5月）」には、  
昨年度からの研究の成果や課題から、  
今年度の研究内容の設定理由を  
詳しく記載しています。



「子どもに委ねた」昨年度の前半。

「やらせっぱなしにならないようにするためには…」  
昨年度の後半からは、私たちも主体性を育むことと、  
指導事項との間で、試行錯誤を繰り返しています。

公開研で他校の先生方からも、  
ご意見をいただきながら研究を推進していきます。  
皆様の参観をお待ちしています。